

基調講演1 清瀬市立芝山小学校 小池 雄志郎 校長先生

<p style="text-align: center;">平成24年度東京都教育庁 校務改善推進事業発表会</p> <p style="text-align: center;">平成24年11月20日 清瀬市立芝山小学校</p>	<p style="text-align: center;">1. はじめに</p> <ul style="list-style-type: none"> 清瀬市立芝山小学校 昭和28年開校 児童数199名7学級(平成23年度) →185名6学級(平成24年度)に減 清瀬市南西部、西武池袋線沿いの住宅街にある。近隣には農地が多い。 学校から徒歩10分ほどのところに学校農園がある。
<p style="text-align: center;">2. 教職員の構成(平成24年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> 校長 1名 副校長 1名(新) 主幹教諭 1名(新) 主任教諭 3→1名 教諭 6名 養護教諭 1名 非常勤教員 1名 再雇用教員 1→0名 都費事務主事 1名 都費栄養士 1名 市費事務嘱託員 1名 市費再任用 用務主事 1名 	<p style="text-align: center;">3. 本校の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校農園の維持管理を用務主事が担っており、学校を離れることが多い。 教員数に対して分掌の数(教務・生活指導・研究推進・特別活動・保健の5つ)が多く、非効率的である。 単学級であることに加え、教職員間の連携が不十分で、個々の教員の負担が大きい。
<p style="text-align: center;">4. 実践の概要</p> <p>【第一段階】(平成23年4月～、9月～)</p> <p style="text-align: center;">「学校経営会議」の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 従前より行っていた「学校経営会議」(校長・副校長・教務主任・生活指導主任)に、事務主事を加えた。 その後、さらに用務主事を加えた。 	<p style="text-align: center;">4. 実践の概要</p> <p>【第二段階】(平成23年12月～)</p> <p style="text-align: center;">「分掌組織」の改正</p> <ul style="list-style-type: none"> 学級数減に伴う教員数減を念頭に、複数の分掌を統合し再編成した。 係を一人で担当することを避け、複数の教員で連携を図りながら職務を遂行させるようにした。
<p style="text-align: center;">組織図(改正前)</p>	<p style="text-align: center;">組織図(改正後)</p>

<p style="text-align: center;">4. 実践の概要</p> <p>【第三段階】(平成24年3月～)</p> <p style="text-align: center;">文書決裁を通した組織の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> 武蔵村山市立第三中学校の実践(OJT推進指定モデル校)を参考に実施した。 文書起案に際して、主幹教諭や主任教諭をOJT担当者として関与させ、日常的な指導助言の機会を確保した。 	<p style="text-align: center;">文書決裁を通した組織の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> 「担当」→「主任教諭」→「主幹教諭」→「副校長」→「校長」→資料化 単なる押印ではなく、コミュニケーションある人間関係を心がけさせる。 
<p style="text-align: center;">5. 実践の成果</p> <p>【第一段階】</p> <p style="text-align: center;">「学校経営会議」の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務主事及び用務主事が参画し、行うべき業務内容を確認し合い、調整し合うことにより、効率よく校務を遂行することができた。 新しく着任した副校長、主幹教諭(教務主任)が、校務に見通しをもってあたることができた。 	<p style="text-align: center;">5. 実践の成果</p> <p>【第二段階】</p> <p style="text-align: center;">「分掌組織」の改正</p> <ul style="list-style-type: none"> 分掌を統合・再編成し「学校経営会議」のメンバー(主幹教諭・主任教諭)に統括させたことにより、組織としての動きが円滑に進むようになった。 効率化によって、大規模改修工事に係る教職員の作業時間を生み出すことに役立った。
<p style="text-align: center;">5. 実践の成果</p> <p>【第三段階】</p> <p style="text-align: center;">文書決裁を通した組織の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> 意思決定プロセスに必ず「学校経営会議」のメンバーが関与することが意識化された。 主幹教諭や主任教諭への報告・連絡・相談が徹底され、組織がより有効、より円滑に機能するようになった。 	<p style="text-align: center;">6. 今後の課題</p> <p>校長から見て</p> <ul style="list-style-type: none"> 業務を整理し効率よく処理することは重要。しかし、業務の絶対量は変わらない。 小規模校は時数軽減などの措置はない。しかし、大規模校と業務の多様性は変わらない。 業務の絶対量を減らすか、処理にあたる人員が増えない限り、多忙感の解消は難しい。
<p style="text-align: center;">6. 今後の課題</p> <p>副校長から見て</p> <ul style="list-style-type: none"> ある程度見通しをもって業務を行えるようになった。 しかし、管理職の決裁を必要とする文書処理や施設開放に伴う事務処理など、役割分担では対応できない業務は多い。 	<p style="text-align: center;">6. 今後の課題</p> <p>事務主事から見て</p> <ul style="list-style-type: none"> 市費事務嘱託員(月16日勤務)は配置されているが、事実上、都費事務主事一人の体制であり、役割分担には限界がある。 本校の用務主事は市費再任用職員(月16日勤務)一人配置であり、業務の分担にもやはり限界がある。 本校の取組みがシステムの異なる他校でも実現できるとは限らない。